

学 校 評 価 実 施 状 況 調

改正学校教育法及び学校教育法施行規則が平成19年12月26日に施行されたことにより、各学校においては、教職員による自己評価を行いその結果を公表することが義務づけられ、併せて保護者その他学校関係者による評価を行いその結果を公表するよう努めるものとされました。

つきましては、各私立学校における学校評価の実施状況等について以下に記入願います。

学校教育法施行規則（抄）

第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定し行うものとする。

第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

[これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に準用されています。]

学 校 名		常総学院高等学校
令和6年度の状況		
1 学校評価の実施状況	※該当項目にチェック	(未実施の理由)
① 教職員による学校の自己評価を実施	☒ 実 施 ☐ 未実施	
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	☒ 実 施 ☐ 未実施	
③ 第三者による学校評価を実施	☒ 実 施 ☐ 未実施	
2 評価結果の公表状況		
① 保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	☒ 実 施 ☐ 未実施	学校評議委員会にて公表
② 広く一般に公表	☒ 実 施 ☐ 未実施	ホームページにて公表
令和7年度の計画		
1 学校評価の実施予定		(未実施の理由)
① 教職員による学校の自己評価を実施	☒ 実 施 ☐ 未実施	
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	☒ 実 施 ☐ 未実施	
③ 第三者による学校評価を実施	☒ 実 施 ☐ 未実施	
2 評価結果の公表予定		
① 保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	☒ 実 施 ☐ 未実施	
② 広く一般に公表	☒ 実 施 ☐ 未実施	

※ 令和6年度の公表資料、第三者評価における評価者がわかる資料を添付すること。

令和6年度 常総学院高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	(A)十分達成している	クラス毎の皆勤・精勤率も高位安定。小テスト等による単元理解の確認および英単語をはじめとした科目ハードル試験等全員が合格しており、大学現役進学率も87%と安定。特に、東京大学1名、京都大学2名、筑波大学13名など国公立大学に109名、難関私立大学に123名合格。また、医学部医学科へは16名合格。また、部活動面においても、数多くの部活動が全国・関東大会に出場し成果を出している。単年度の重点目標は達成できているととらえる。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
	A 十分達成している	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	(B)どちらかといえば達成している	各教科・学年・分掌ともに細かく具体的な目標を掲げて、校務を遂行している様子がうかがえる。今後とも継続して行っていきたい。また、一部達成が十分でない部門が見られるが、概ね成果が見られる。達成が不十分な部門に関しては、次年度以降引き続き努力してもらいたい。
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
	A 十分把握している	
	(B)どちらかといえば把握している	
3. 次年度への主な課題の把握について	C どちらかといえば把握していない	各教科・学年・分掌ともに十分認識していると思われるので、今年度以上、目標達成に向けて一層の努力を期待する。
	D 把握していない	
	(A)策定できている	
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
4. 改善方策の策定状況について	D 策定できていない	現状を掌握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目においてより具体性を持った改善策を講じていってほしい。
	(A)策定できている	
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

令和6年度 常総学院高等学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	Ⓐ 十分達成している B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	遅刻・早退者もほとんど見かけず、挨拶、服装もしっかりしており、きめ細やかな指導が行われている様子が伺える。大学現役進学率も87%。部活動面においても、男女バドミントン部・水泳部・吹奏楽部等の全国大会出場など、関東・全国大会に出場する部活も多く、部活動との両立した進学校として、地元に着目しており更なる発展を期待したい。
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	Ⓐ 十分達成している B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	一部達成が十分でない部門が見られるが、概ね成果が見られ、学校の活性化に向けての努力が伺える。達成が不十分な部門に関しては、次年度以降引き続き努力してもらいたい。
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している Ⓑ どちらかといえば把握している C どちらかといえば把握していない D 把握していない	各教科・学年・校務分掌において、しっかりと現状分析をしていると思われる。今年度以上に課題が達成できるよう期待したい。
4. 改善方策の策定状況について	Ⓐ 策定できている B どちらかといえば策定できている C どちらかといえば策定できていない D 策定できていない	現状を掌握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目において一層の改善策を講じてほしい。

目指す学校像		『知育・徳育・体育・体育の円満なる人物の育成』との建学の精神に則り、「自主・読書・創造」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを輩出することを目標とする。		次年度(学期)への主な課題・改善方針	
評価項目	具体的目標	具体的方策	要 点	評価	
国語	〈現代文分野〉基礎的な読解力の定着を図るとともに、豊かな語彙・知識を習得し、日本語を通じて、情報読解力・情報組織力の涵養を主体的に図る。 〈古典分野〉日本の伝統的文化に関する知識・感性の基礎を形成する古典的教養を身につけ、古典を読解し、自らの生き方を見つめるきっかけにする姿勢を身につける。	生徒の習熟度に通じた教材を精選するとともに、指導技術の向上と工夫を図る。		A	習熟度確認の方法を工夫し、学習内容の定着との密着化を図る。 他教科、学年、併設中学校との連携を強化し、学習内容定着の効率化を図る。 1年次から学年とも連携し、読書習慣の確立・発展を継続的に図っていく。
		基礎学力定着のために、演習テストを頻繁に実施し、評価する。		A	
		日本語に対する主体的態度を育むために、適切な助言により効果的な学習活動を促すとともに、段階的に主体化を図る。		B	
		宿題・課題等を課し、自宅学習の充実を図る。		A	
地歴・公民	〈地歴〉資料集等を用い、地理的条件等と関連づけて、日本や世界の歴史を総合的に考察させ、歴史的思考力を養う。 〈公民〉現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解させ、それらに関する諸問題を主体的に考察させて、知的好奇心にあふれた良識ある人材の育成を図る。	理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		A	習熟度確認の方法について、より良いものをめざし工夫する。 教科内での科目間の連携を図り、限られた時間を効率的に活用し、生徒の知的・好奇心の喚起、科目内で連携し、生徒の理解を深める。 物事の本質的理解を図る。 新学力観に対応するため、グループワークやプロジェクトを活用した授業を導入する。 新学力観にもとづき、グループワークやプロジェクトを使った授業を導入する。
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		B	
		授業の単元ごとに小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。		B	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		A	
数学	精密な授業計画のもとに基礎学力の定着と応用力の向上、家庭学習の充実を図る。	AL型の授業を取り入れ、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。		B	教材の精選と授業内容の充実を図る。 シラバスを整理し、生徒の現状と大学受験に合わせた授業計画を練る。基本的事項のより一層の定着と応用力の伸長を図る。また、学力の3要素を育んでいくためにAL型の授業を取り入れたり、ICT機器の活用を図っていく。
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		A	
		AL型の授業を取り入れ、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。		A	
		単なる知識だけの教授だけではなく、その背景にある原理・原則も理解させるように工夫する。		A	
理科	自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する基礎学力を充実させる。	教材・教員の工夫や実験・観察を実施し、授業内容の理解に助けるよう工夫する。		A	実験・観察を更に充実させ、生徒の興味・探究心を喚起する教材を研究する。各実験室・準備室を整理整頓し、より使いやすい場にする。
		授業内容の小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。		A	
		基礎事項の理解を徹底させるとともに、問題演習を十分に行う。		A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		A	
芸術	生徒個人の創造性を引き出るとともに芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		A	実技の授業による感受性の育成を図る。音・絵画・書という芸術分野に触れさせ興味をいだけさせる。
		授業において可能な限り、個別指導を取り入れる。		A	
		実習内容の精選を図り、教材と指導方法の工夫と改善を図る。		A	
		専門的な知識や技術の習得だけでなく、芸術への興味関心を喚起するよう工夫し実施する。		A	
保健体育	心と体を鍛え、集団において自己の役割を認識させる。保健の基礎知識を習得させ、生きる知識をばくむ。体育においては、体力向上と共に怪我等の防止に努める。	体育の個人技量の向上と集団行動において他人を思いやる心を養成する。	個人技量向上、思いやり	A	生涯にわたって積極的に体を動かそうとする姿勢とその能力を養む。 保健学習では、将来の健康なライフスタイルを確立させるため、青年期の正しい生活習慣の維持が重要であることを理解させる。代表的な生活習慣病である癌に対し、原因・予防・治療について学習指導する。
		保健の授業では視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。	保健授業視聴覚教材活用	A	
		ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	事故防止、安全管理	A	
		スポーツへの多様なかわり方を理解させ、身近な経験とリンクさせた考え方を身につける。		A	

入試広報課	全員四年制大学への進学を前提とした生徒募集活動を行う。	全員四年制大学への進学を前提とした生徒募集活動を展開する。	全員四年制大学進学PR 学習第一主義	A	学校案内、説明会・見学会資料の効果的な活用とプレゼンテーションによる短い時間インパクトのあるPRを工夫する。グラフィックや図表、映像・画像を駆使し、わかりやすく印象に残る企画を盛り込む。とくに中学生を引きつける内容を再吟味する。
	グローバル社会、高度情報化社会に対応できる人材を育成するため、基礎学力の定着はもとより、ICT教育の積極的活用など、独自の教育プログラムを展開しているといった評価を得る広報活動をする。	生徒一人ひとりの目標達成のための二者面談や日頃の親身な学習支援を紹介する。不合格ノートなどにより、定期試験成績不振者のきめ細かなサポート体制など面談の良さをアピールする。習熟度別クラス編成や文系・理系の目標大別授業内容などを紹介する。模試の思考力・問題発見力などを養うためにグローバル・スキル・タフ・プログラム・カン・エナジー・ネットなどに取り組んでいる事を紹介する。授業、アクティブラーニング、探究の時間など、あらゆる場面でICT機器の活用を推進し、た教育活動が行われていることを紹介する。ICTの活用、海外大学進学などのサポート、留学生の導入とグローバル・スキル・ネットに付随する人材育成に貢献していることを紹介する。	特講、補習、図書館夜間開放 個々の目標達成の支援 成績不振者対策ノート 探究学習・キャリア教育 習熟度別クラス編成	A A A A A A A A	また、過去の出席状況を分析し、幅広く本校への理解を深めてもらう様、各地域において数多くの説明会等を行う。さらに、ホームページの充実と更新のスピード化にも重点を置き、幅広くPRを展開していく。
	授業時間の確保に努める。	年休出張等は事前に要変更し、突発休は当日授業補填を100%確保に行う。毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	突発対応100% 授業時間の確保 時間割編成の配慮 教育課程編成 シラバス作成 進捗・深度計画調整 教科会議との連携 主任会議運営 フレッシュマン研修制度	A A B A B A A A	大学入試を重視した、カリキュラムの更なる改善に努める。定期試験問題の充実化、教員の勤務条件を更に公平化し、学習活動の活性化に努める。基礎学力の向上に向けての全体的な取り組みを引き続き実施していく。
教務課	適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	中高6か年(中高一貫コース)と高校3か年(外進コース)の各シラバスを編成する。生徒の学力に応じた教材とその進捗及び進度計画を毎年見直すことに努める。	大学受験情報や入試対策の参考資料の充実を図る。 一般教養の習得や入試対策として、新聞の自由閲覧や保管管理業務を行う。 小論文対策や志望動機理由の参考になるような図書の実装を図る。 新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。 生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。 ビブリオバトルの実施により読書への意欲、他者受容力を養う。 放課後図書館を開放し自学自習の場とする。 図書館内では私語を禁じ、黙々と集中して勉強する態度を育成する。 探究活動の拠点として資料の充実を図る。	A A A B A A A A	学習センターの役割として夜間の開放を実施し、生徒に学習環境を提供した。朝図書館、放課後の開放を行い、生徒たちにとって有意義な読書と学習の場として機能している。今後より一層自学自習の場・探究活動の拠点としての機能を充実させたい。生徒・教員の要望に對し蔵書の充実にも努めているが、更なる工夫に努めていきたい。ビブリオバトルについてはクラスでの実施、コースごとでのビブリオバトル大会などのイベントも企画され、学校内で広く浸透してきたとともに生徒たちが意欲的に取り組み、読書推進できるよう更に発展させていきたい。
	教科による研修の充実を図り、授業力の向上に努める。	教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。定期試験や模試結果より、授業内容の改善について主任会で検討する。教科ごとに研修を行い、授業方法の改善をこころがける機会を与える。	大学受験過去問管理 新聞管理 小論文対策 新刊書の購入手配 リクエスト本 図書配置、管理 朝学習 図書館内マナー指導	A A A B A A A A	学習センターの役割として夜間の開放を実施し、生徒に学習環境を提供した。朝図書館、放課後の開放を行い、生徒たちにとって有意義な読書と学習の場として機能している。今後より一層自学自習の場・探究活動の拠点としての機能を充実させたい。生徒・教員の要望に對し蔵書の充実にも努めているが、更なる工夫に努めていきたい。ビブリオバトルについてはクラスでの実施、コースごとでのビブリオバトル大会などのイベントも企画され、学校内で広く浸透してきたとともに生徒たちが意欲的に取り組み、読書推進できるよう更に発展させていきたい。
	情報センターとして、入試やニュースなどの資料の充実を図る。	大学受験情報や入試対策の参考資料の充実を図る。 一般教養の習得や入試対策として、新聞の自由閲覧や保管管理業務を行う。 小論文対策や志望動機理由の参考になるような図書の実装を図る。 新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。 生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。 ビブリオバトルの実施により読書への意欲、他者受容力を養う。 放課後図書館を開放し自学自習の場とする。 図書館内では私語を禁じ、黙々と集中して勉強する態度を育成する。 探究活動の拠点として資料の充実を図る。	大学受験過去問管理 新聞管理 小論文対策 新刊書の購入手配 リクエスト本 図書配置、管理 朝学習 図書館内マナー指導	A A A B A A A A	学習センターの役割として夜間の開放を実施し、生徒に学習環境を提供した。朝図書館、放課後の開放を行い、生徒たちにとって有意義な読書と学習の場として機能している。今後より一層自学自習の場・探究活動の拠点としての機能を充実させたい。生徒・教員の要望に對し蔵書の充実にも努めているが、更なる工夫に努めていきたい。ビブリオバトルについてはクラスでの実施、コースごとでのビブリオバトル大会などのイベントも企画され、学校内で広く浸透してきたとともに生徒たちが意欲的に取り組み、読書推進できるよう更に発展させていきたい。
図書課	読書、読書等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	読書、読書等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	図書配置、管理 朝学習 図書館内マナー指導	A A A	読書、読書等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。
	図書館を利用した学習習慣の確立を目指す。	図書館内では私語を禁じ、黙々と集中して勉強する態度を育成する。 探究活動の拠点として資料の充実を図る。	図書配置、管理 朝学習 図書館内マナー指導	A A A	読書、読書等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。
	放課後の特講授業の年間計画の作成。	各学年のカリキュラムに応じ、放課後の特講授業を計画する際の調整役を行う。年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。定期試験や模試試験の結果を分析し、特講内容について随時各担当者で相談する。	特講授業編成 特講授業実施状況把握 定期、模試分析と対応 夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A A B A B B A	定期試験・模試試験の成績を通じ過年度比較を行い、教科毎に何を取り組んでいけばよいのかを提言できるようなシステムを構築していく。校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。
学習指導課	夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	夏期休業期間中の前期、後期の特講授業の各学年間の調整を行う。夏休み中の各学年行事や野球応援などに随機応変に対応できる体制を整える。新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。入校確認日の際には、クラス分け試験の準備や教員役割分担などを作成する。	夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A B B A	校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。
	新入生のための指導計画を立案する。	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。入校確認日の際には、クラス分け試験の準備や教員役割分担などを作成する。	夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A B B A	校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。
	ICTの活用を促進する	ICTの活用を促進する	夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A B B A	校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。
ICT教育課	授業を充実させるためにICT環境を整備する。	生徒向けのChromebookを整備する	夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A B B A	校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。
	ICT環境改善のために導入するソフトウェア・アプリの検討をする	ICT環境改善のために導入するソフトウェア・アプリの検討をする	夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A B B A	校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。
	教室に電子黒板機能付きプロジェクターを整備する	教室に電子黒板機能付きプロジェクターを整備する	夏休み特講調整 夏休み特講随時対応 新入生事前指導 新入生クラス分試験	A B B A	校内ICTの活用とAI型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。定期試験や入試の採点に關する電子化について具体的に対策していく。

生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り	学校生活に不要な物品に関する生徒の意識の向上を促す。 授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業に集中する姿勢の指導徹底を図る。	学校生活全般に対する意識の向上	A	B	個人の人格を尊重し個性の伸長と社会の一員としての資質や態度を高めることを促す。望ましい人間関係の育成を目指し、健康的な生活の習慣を身につけさせる。
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	全員の会と連携し、各支部単位で各地区の祭巡回やスクールバス指導などを展開する。	ベル着、授業に集中する姿勢 啓動・精進の奨励	B	B	
		父母の会と連携し、各支部単位で各地区の祭巡回やスクールバス指導などを展開する。	学外での生徒指導体制の充実	A	A	
		生徒指導委員会、各学年検討委員会等、各支部単位で各地区の祭巡回やスクールバス指導などを展開する。	各種検討委員会	A	A	
		父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換会や相談会を実施する。	情報交換会、相談会の実施	B	B	
特別活動課	心の教育の充実	生徒会役員と連携し、「あいさつ運動」を展開する。 社会のルールを守ることや、他人への思いやりの大切さを醸成する。 消火活動や事故防止活動、その他いじめやいじめの被害者に対する意識の高揚を促す。	あいさつ運動の展開 社会規範意識の醸成・向上 善行の意識の高揚	A	A	生徒会役員や各実行委員のより一層の自主性を養えるような指導をする。
	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会役員が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。 生徒会「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを待たせる。 生徒会からの意見を元に、生徒会役員生徒が教員と通話し合い、より良い学校づくりに努める。	生徒会活動の支援 予算編成・執行業務 生徒会誌編集とブライド	A	A	
	部活動の活性化を図る。	各活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。 各活動実績を毎月全校集会で発表したり、C棟に掲示するなど広報に努める。 野球応援等に積極的に参加するように呼びかけることで母校愛を高める。	生徒会役員生徒との連携 部活動予算案の通正配分 部活動実績広報活動	A	A	
	新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。	新入生歓迎会で生徒会や部活動を紹介し、本校への帰属意識を高める。 常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し創意工夫の力を育てる。 外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	野球場応援と母校愛 新入生歓迎会の運営 常友祭と創意工夫の力	A	A	
	保健衛生管理に努める。	定期的なトイレや流しの手指消毒液・石鹸の有無を確認し、衛生管理に努める。 教室内の換気、手洗いを励行し、感染症予防に努める。 施設環境課と連携し、教室や廊下の清掃を徹底し、清潔な環境を保持する。	芸術鑑賞会の企画運営 衛生管理の徹底 換気、手洗いの励行	A	A	
保健室	生徒の健康管理	定期健康診断の結果より、事後措置を行い、健康に留意させる。 生徒及び保護者に「保健だより」を定期的に発行し、注意を促す。 掲示物を利用し、さまざまな病気や注意すべき事例に興味・関心をもち、自己管理能力を高められるよう努める。	定期健康診断の実施、事後措置 保健だよりの発行 保健室前掲示	A	A	自らの心身の健康について主体的に考え、生涯にわたって心身共に健康な生活を実践できる生徒を育成する。 自他の生命の大切さを理解し、思いやりをもった行動が出来る生徒を育成する。
	教育相談の実施	体の病気や精神的な悩みについて相談しやすい環境を整える。 心身のバランスが不安定な生徒を早期に見出し、学年主任・担任等と連携して、的確な対応に努める。 SCと連携し、教育相談の充実を図り、必要に応じて専門医や関係機関へつなげるなど、適切なアドバイスを行うように努める。	個別相談 担任、学年主任等との連携 専門医・関係機関との連携	A	A	
	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。 将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。 「進路だより」を定期的に配布し、教員及び生徒間で共通理解を図る。	進路講演会支援 進路関連資料充実 進路だより発行	A	A	
	進路指導課	授業が大切であることを認識させるために、的確な進路情報を発信する。 学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。 学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、学力向上を支援する。 生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三学期時に配布する。 父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。	授業第一主眼と進路情報 学習調査 全国模試実施回数調整 大学合格体験記の活用	A	A	
	キャリアデザイン課	体験学習や講演会などを進め、キャリアデザインの概念を身に付けさせることにも、進路決定への足掛かりとし、実際の入試へも役立てる。	PTA総会、その他情報提供	B	B	
キャリアデザイン課		体験学習や講演会などを進め、キャリアデザインの概念を身に付けさせることにも、進路決定への足掛かりとし、実際の入試へも役立てる。	PTA総会、その他情報提供	B	B	次年度は、各クラスの進路委員を積極的に動かし、生徒主体の活動を行っていく。
				A	A	
				A	A	

中高一貫 コース	ICTを上手に活用し、授業時間内での学習の到達を目指し、学習時間の自己管理や学習内容の俯瞰にも取り組む。また、与えられた課題に留まらず、主体的に学習内容を決定、課題の遂行をする習慣をつける。とくに英語4技能の向上に努める。 プレゼンテーション資料の作成や発表を行う中で、自ら問題を発見し、設定し、解決する能力を養う。またそれらを他者に発信する能力を育てる。 学校行事に積極的に取り組み、多様な学校生活の構築を目指す。学校に対する帰属意識を高め、健康に留意し健全な心身を養う。	ひとつひとつの授業に準備をして真摯に取り組ませる。 学校行事に積極的に取り組ませる。 学習時間の自己管理を行わせる。 主体的に学習内容を設定させる。 プレゼンテーション資料の作成、発表を行わせる。 英語4技能の向上に努める。 classというツールを使い、自分の生活をプランニングできる人材を育てる。	A A B B A A B	社会教育として、様々な職業に携わる人々の講演を聞かせ、職業意識や進学意識を喚起させる。 A
特進選抜 コース	国立大学進学を目標に、学校内における生活面・学習面において規範的な存在となることを目指す。将来的には自らの可能性だけを追求するのではなく、社会的立場や他者に對する貢献する意識を持たせ、対人関係を築くことを目標とする。	学校規範に則り、日々の学校生活において、規範的な活動をさせる。 大学受験から逆算して、個々に必要な学習習慣を定着させる。 IIR・探究活動等を通して、自己理解・他者理解に努め、社会貢献心を養う。 具体的な進路意識を持たせ、国立大学進学を目指し日々の学習が主体的活動となるよう導く。 特進などの課外学習を利用し、受験に必要な学力を確保する。	A B A B A	進路計画・探究計画を始め、3か年の各種指導におけるさらに詳細な計画を作成し、実践から改善に繋げる。一人でも多くの生徒が学びに對する意識が良くなるよう指導の日々指導の研鑽を積む。 A
進学選抜 コース プログレッシブ	どのような世界になろうとも対応できる人材を育成することを目的に「チーム」で協働できる人財・どんなチャレンジする人財」自分の意見をしっかり言える人財」を育む。その目的達成に向け、基礎基本を大切にしながら、教科指導、学習中心の特別講座に加え、計画的な探究活動を実施している。また、生活指導も重要と考える。日々の学習時間や行事ことの振り返りを実施している。	classというツールを使い、学習時間の入力を促し、自分の生活をプランニングできる人材を育てる。 行事や探究活動内容をGoogleスプレッドシートにまとめさせることで振り返りを行わせ、JOSO実業Core Skillの達成に努める。 特別講座ではスタディサプリを活用し、苦手分野の補填を中心に基礎基本の定着に努める。 中学校時代および高校の日々の学習習慣や生活習慣をデータとして取り、自分ブレゼンを行う。 2学年の探究は一人一テーマで1年間かけて行う。そのサポートに大学生大学院生が入る。 総合型選抜に向けたサポートを本格化させた。外部講師を講師に招き、小論文指導、英語指導などトータルサポートを実施している。	A B A A A A A	3年間で計画的な探究活動を通じて希望進路を見出す。また、2学年の探究活動を基盤に、志望理由書へと昇華させ希望進路の実現を達成させていく。志望理由書への昇華にむけサポートとして外部講師を招聘する。サポート期間は高校2学年10月～高校3学年9月までの1年間を予定している。 A
進学選抜 コース フロンティア	卒業とともにいろいろな課外活動を通して豊かな人間性を身につけつつ、幅広い視野と異業種を身につける。探究の授業を通して学習探究・地域探究を行い、地域企業と連携して、キャリア教育の充実を図る。	部活動の運営とクラスルームの円滑な運営両輪をしっかりと融合させる。 部活動をやっていない生徒達に対する特選での補習の推進。 強化部以外の部活動に対する成績向上のためのバックアップ体制の確立。 幅広い視野と見識を身につけるための著名人講演会の実施。 学習探究や地域探究における教材の充実。 豊かな人間性を身につけさせるための研修と教員面談をする。 大学進学における進路指導とそれに対する教員間の連携。	A A B A A B A	英語の教材を利用して英検の取得やG-TECスコアの向上を目指す。 部活動に対する成績向上の喚起を促すとともに研修機会を設ける。 これまでのやり方に固執せず、新しい意見を取り入れフロンティアコースの隆盛を図る。 A